

令和5年 二十歳の集い



二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。

令和4年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられましたが、市では、二十歳という人生の節目をお祝いするため、新型コロナウイルス感染症対策を徹底の上、1月8日に市文化会館で二十歳の集いを開催しました。今年、二十歳を迎えられたのは、平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれた人、468人でした。

二十歳のことば 代表して発表された「二十歳のことば」を紹介します。



やすだ ゆうと
安田 悠人さん

これまでの人生を振り返りながら私が大切にしていることを伝えたいと思います。

1つ目は、信念を持って挑戦し続けることです。私は小学2年生の時から約13年間野球を続けています。高校卒業後も大学で野球を続けていましたが、自分の力を試したいという思いから、今現在は独立リーグという新たな環境でプレーしています。野球人として

社会に出る選択をした私ですが、野球そのものの収入はまだほとんどありません。バイトをしながら練習や試合をこなし、プロを目指すという日々は、何気なく送ってきた大学生活とは大きく違っていました。しかし、失敗してもいいから野球で勝負しようという強い気持ちを持って、一歩踏み出したことに悔いはありません。先の見通しが立たない、1日1日が勝負という世界の中で挑戦し続けることは、決して容易なことではありませんが、向上心を持って取り組んでいこうと覚悟を新たにしているところです。

2つ目は感謝の気持ちを忘れないことです。今日、笑顔で「二十歳の集い」を迎えられたのは、私たちをこれまで支えてくれた方々のおかげです。近年は、コロナ禍というこれまで誰も経験したことがない災害の中で、家族や指導者といった頼れる存在の大きさを改めて痛感しました。また、悩みや不安を共有した仲間と互いに背中を押し合った日々はかけがえのない財産となりました。3密の回避や外出制限等を経験して、普段どおりの日常を過ごせることのありがたみ、またはそれを得ることの難しさを人一倍感じてきた私たちだからこそ、各々が将来の在り方について真剣に考える必要があると思います。

これから先の長い人生、選択と決断の連続だと思えます。何が正解の道かを考えるのではなく、選んだ道が正解だったと言えるように努力することが最も大切であると思えます。どんなときでも自分の行きたい道へ進み、突き進んでいくことを誓い、「二十歳のことば」とさせていただきます。



えとう りな
江藤 里奈さん

私が暮らしている場所は、地域の方々同士の交流が深く、子ども会のイベントやあいさつ運動、見守り活動を通じて、子どもたちと積極的に関わり、温かく見守ってくださる大人の方が多くいらっしゃいました。私自身、学校からの帰り道「おかえり」と声を掛けていただくたびに、気恥ずかしさを感じつつも、安心できたのを今でも覚えています。こうして当たり

り前のように享受していた安全・安心の毎日があたたかい地域づくりを継続してくださる人々によって支えられていたものだったと思うと、感謝の念に堪えません。また、その姿から誰かのために行動すること、それを継続することがいかに尊いものかを学ばせていただきました。本当にありがとうございます。

地域の方々にお世話になる一方で、友人や先生方に囲まれて過ごした学校生活は、私にとって学ぶことの楽しさや難しさに触れるだけでなく集団生活を通して、社会での自分の在り方を考える場でもありました。振り返れば、たくさんの思い出とともに、自分のことで精一杯になり、周りに目を向けることができなくなるとは、行き詰まっていた時の記憶が蘇ります。二十歳になった今、当時の私から見て、少しでも思い描いていたような自分になっているのだろうかと思問自答の中で不安になるときもあります。ただ、そのたびに「焦らなくてもいい。なりたいたい自分に向けて、何か行動に移すことに遅すぎるということはないのだから」と励ましてくれた先生の言葉が私に前を向く力をくれるのです。

私たちは、これからです。自身が歩む未来を自分の手で自由に描くことができます。同時に、一人の大人としての自覚と責任を果たす必要があります。これまで関わってくださった多くの方々への感謝を忘れることなく、思い描いていた自分に少しずつでも近づいていけるよう、日々精進していくことを決意し、「二十歳のことば」とさせていただきます。



問合先 教育委員会事務局生涯学習課
社会教育グループ ☎84-5057

令和5年二十歳の集い
実行委員会の皆さん